

令和5年度 第3回健康福祉審議会健康分科会 議事録

日 時：令和6年2月28日（水）13:30～15:00

場 所：かが交流プラザさくら 202会議室

出席委員：新澤委員、橋本委員、光谷委員、田端委員、川向委員、森澤委員、北井委員、
藤川委員、角地委員、神垣委員、藪下委員、家元委員、後出委員、佐藤委員

欠席委員：木戸口委員、谷本委員

次第

1. 開会

2. あいさつ 健康課長

3. 議題

議事進行：北井会長

(1) かがし健康応援プラン21（第三次）計画（案）について 資料1参照

質疑応答

北井会長：資料をみていると加賀市の人口は6万人をあと5年くらいできる。高齢化率は変わらず高齢者が増えて生産人口が減る。その中で生産人口の方々の健康を守っていくために、いかに先手を打つかというのがこの計画の主体ではないかと思う。

新澤委員：加賀市は人口としてはそんなに大きい所ではないが、これまでの計画でもきめ細かくやっている印象をもっている。特にいいのは企業がとりこまれているということ。それともう一つ、地区別に細かく分けてやっていること。今回、男性もかなり増えて保健推進員の方も入っている。そういったものを広めていく時には、まず第一歩は自分たちの意識を高め、自分の周囲の意識も高め広めていくことになると思う。他の地域に比べて、巻き込む人をたくさん作るというのがいい政策だと思う。これからの希望として、喫煙の問題も出ていたし、飲酒の問題もデータの的には高い気がしたので、この何十年の間で取り組んでほしいと思う。また、これまで別の計画だった食育計画が今回のプランでは組み込まれていた。食育推進計画は子どもだけではなくて、全世代を通じてこれまでやってきたものなので、これがここに入っていてとてもわかりやすい印象をもった。あとは、食育推進計画の中で、子どもの朝食の問題もあるが、最近、肥満傾向児が増えている。一時期下がったがまた増えてきている。これも地域問題であり、調べて対策があってもいいと思う。

北井会長：いくつか重要なポイントを指摘いただいた。地区的の健康の把握をしているということで、区長会連合会の神垣委員にご意見いただきたい。区長会というと地区地区全員の区長がでている会でよろしいか。
こう言う会はなかなか区長を引き受けてくれる方が少なくなる中、加賀市の区長会は熱心に活動しているのか。

- 神垣委員：区長会連合会は中学校区に大きく分かれており、各地区に属した形で活動しており、地域の吸い上げという形をとっている。
- 北井会長：連合会の中で健康に関する話題が出ることはあるか。
- 神垣委員：健康に関しては特に話しが出ることはない。
- 北井会長：今回、特定健診の割合が地区ごとになっているが、区長会で話題が出ると保健師は活動しやすい。保健師は地区別の担当になっているか。区長会とつなぐ取り組みになっているか。
- 事務局：区長に話をしている。
- 北井会長：区長会に出たらいいのではないか。データをもって区長会に顔を出し形で示すことで区長同士が切磋琢磨して受診率を増やすかもしれない。
- 事務局：区長会の中の組織に保健推進員という組織があり、地区の保健推進員と協議して進めている。
- 北井会長：区長会はその数字を知らなかった。伝わっていない。
- 神垣委員：連合会自身には保健推進員の参加がないので、数字の把握は区長会連合会にはない。
- 川向委員：自分は動橋地区だが、区長会にも健康課の方は説明をしている。ただ、連合会の方々、また各町の区長さんも任期が1年とか2年とかばらばらである。その都度、毎年、区長の仕事に加え、保健の話もあり色々なことも請け負わないといけない。その中で、どこまで区長が全部やらないといけないのか。仕事量が多すぎて健康までいかない。だからこそ今、動橋地域では20人の保健推進員が集まって地域を発展していこうと一生懸命頑張っている。健康課の皆さんも努力している。自分もこの会に入ってわかるようになってきたが、いかに全く知らない方に広めていくかということは、区長さん、保健推進員、各地域の一人一人が意識づけを向上させる。それが一番大事だとみんなで考えていかないといけない。話は区長会にもいっていると思う。ただ発揮することがすごく難しい。みなさん頑張っていることだけわかっていただきたい。
- 北井会長：重層的にいくつも層を重ねながらやっていることは分かった。これからも引き続き地区別、地区の方々に身近な所で健康の話を進めていただければと思う。食育に関して指摘があったが、食生活改善推進員の森澤委員、何か意見はあるか。
- 森澤委員：食改として、いつも頭を痛めている。がんフェスタとか地域の方と各地域に分かれて食事を一緒に作って「減塩は大事ですよ」とお味噌汁の塩の濃度を計ったり色々なことをしているが、その場限りとなってしまう。家庭でもそうだが、「こんな薄いものは食べられないわ」とか「こんな野菜ばかり食べられないわ」とか人ごとのように言われる。私たちが頑張っているがその場限りのことが多い。その時は「おいしいよ」と言うが、果たして家庭に反映しているかというのできていないことが多い。参加してくれる方がいいが、参加されない方はとても多いので、いかに参加していただいて認識を深めていただけるか常に話をしている。永遠の課題である。興味のある方は参加していて少しでもわかっているし、フレイルの話もわかっている。食改としてもっと広げていきたいが、高齢化になってきていて難しい。若い方にどうしたら伝わっていくかが食改の

最新の課題である。

北井会長：地域地域の食事の改善について努力していることがわかった。

森澤委員：保育園や学校に行き、エプロンシアターをしている。「朝ごはんが大事」、「早寝早起きが大事」、「排便が大事」と色々と細やかにお知らせしないと子どもたちはわからないので、面白く楽しい方法がないか努力している。園に行き演技したり、児童会館に訪問したり、聖城高校に伺い話をしている。

77 ページに昨年交流プラザさくらで行われたものが掲載されている。

北井会長：加賀市は親子こどもシアターをしている。あの時に一緒にするのも面白いかもしれない。

森澤委員：現在、保健推進員の方とコラボしてやりましょう。という話になっているので、広がっていくかなと楽しみにしている。

北井会長：もう一つ飲酒のことで新澤委員から指摘があったが、飲酒率が高いとのことで橋本委員、アルコール関連の疾患はどのように聞いているのか。

橋本委員：頻度が高いかどうかはわかりませんが、重症な方はアルコール依存から抜けられない。実際に 30 代でもアルコール性肝硬変で亡くなっている方もいる。ただ、そういう人は健康に気を配っているわけがないし、家族もお手上げ状態が多く、なかなか改善は難しいと思う。

北井会長：大聖寺は比較的少ないかもしれない。

橋本委員：もっと歓楽街に近いところがあればもっと派手な状態あるいは家飲みで出来上がっている人もいるかもしれない。

北井会長：こういう統計は事務局で持っているのか。

事務局：本計画の 54 ページに飲酒について記載している。喫煙は 56 ページに記載しているが、どちらもその課題は感じており、今後率を下げられるよう対策していきたい。

北井会長：加賀市にアルコール関係で亡くなった若年者はどれくらいいるかというようなデータをみたことがあるのか。

事務局：若年者でどのくらいかという細かいデータは持ちあわせていないが、今後調べながら対策していきたい。

森澤委員：62 ページのかがポイントヘルスケアアプリとありあすが、携帯を持っていないと動かない。つけていないから折角アプリを入れたが使用していない状態である。仕事も携帯を持ってない。歩数もでない。

事務局：グッピーヘルスケアのことだと思うが、携帯にアプリをダウンロードして、アンドロイドはグーグルフィットというアプリも入れる。二つしないと歩数を自動的にグッピーに移行しないことになっている。

森澤委員：体につけていないとダメなのか。

事務局：携帯は体につけるといふか持ち歩かないと歩数はカウントされない。お金はかかると思うが、手の方にスマートウォッチをつけると歩数が飛ぶようには仕掛けができる。5,000 円くらいで購入できると思う。

(2)令和5年度及び令和6年度の主な取組について

①健康増進事業について 資料2参照

北井会長：早速、アプリの話がでてきた。2,000人くらいになっているが、目標は何人なのか。

事務局：令和5年度の目標は2,000人で初期目標は達成した。来年度以降は毎年1,000人ずつを目標に掲げたいと思っている。

北井会長：最終的には何人になるのか。

事務局：最終的には市民のみなさんがほとんど入っていただければと思っている。何人とは設定していない。

北井会長：これからどうやって増やしていくのか。

事務局：これからは魅力あるアプリということで、インセンティブで初期の頃はアマゾンギフト券500円の商品コードを差し上げていたが、高齢の方ではアマゾンを利用しないという意見をいただいた。例えば加賀パフェの食事券を進呈したり、さくらの食事券や色々な企業とコラボ、協賛して景品の方に力を入れて魅力あるアプリとしていきたいと思っている。

北井会長：高校生に全部入れさせたらどうか。学校でポスター等を掲示し景品が当たると言えば喜んで入れるし、家に帰りおじいちゃんやおばあちゃんにこんなものがあるよと広がる気がする。

事務局：当初は高校生も考えていたが、目標としては社会人の方の健康増進というところに注視しており、高校生は対象外とした。

新澤委員：抽選とあるが、どのくらいの割合であたるのか。

事務局：直近の12月のデータでは大体1,800人登録者がいて、まず1,000ポイントに達成しないと自動的にこの権利が与えられない。達成された方が約75%の1,300人が達成した。そのうち400人が当選している。

北井会長：周りでも話題になっている。私も周りにアプリを入れさせた。段々と競争率が厳しくなって当たらなくなる。アマゾンの券は500円。加賀パフェは1,100円する。どんなトリックを使っているのか。

事務局：トリックというか、500円のアマゾンギフト券の当選者を調整し1,000円の方に2枚当たった感じでシフトしている。

後出委員：能美市の方に研修に行ったことで、他の自治体の意見を聞くのは良いことだと思うが、加賀市は保健推進員の認知度が区長さんや保健推進員にも知らないという人がいる。能美市との違いで今後加賀市も改善していったらいいなと思う点があれば詳しく説明してほしい。

事務局：保健推進員の方からも意見をいただき、健診カレンダー（世帯通知）を見やすくするために保健推進員監修のもと進めている。能美市は地区別のカレンダー（大聖寺、山代、片山津）という地区別のカレンダーの作り方をしている。加賀市は日付順に会場をランダムに入れている。

健診予約の制度だが、能美市はコロナをきっかけに予約制度をスタートした。初年度は受診者が減ったが、予約をすることで確実に健診を受ける意識づけや混み具合の解消という点でもよかったと言っていた。加賀市の特定健診は医療

機関の方は予約しているが、集団の方は予約なしで受けられる。予約を取り入れるとより意識づけになる。市内の受診率は、計画の方で地区別の記載があるが、年々各地区の受診率が下がってきている状況にある。ただ、山代地区みたいに上がっている地区もあるので、地区の取り組みにも注目して加賀市全体として受診率を向上していけたらと考える。

北井会長：年に何回行っているか。

事務局：年に約30回くらい行っている。

北井会長：場所は。

事務局：場所は、交流プラザさくらを中心に各地区会館やアビオシティで行っている。

北井会長：だいたい何人くらい来るのか。

事務局：さくらの場合は100人、地区会館には多い地区で50人くらい来る。

北井会長：時期はいつだっているのか。

事務局：地区の健診は6月7日を中心に実施しており、さくらの健診会場は夏と秋、10月と11月で実施している。

北井会長：自治会は1月、2月総会があり人が集まる。その時に健診をやることは可能か。人が集まってこない限り絶対にやれないし、自治会の総会は人が集まってくるのでは。一気に増えると思う。

事務局：一度は検討したが、冬の健診というところでデータがおもわしくないとか2月、3月の総会というところで、そこまで健診案を設けることができない。昔、地区の運動会に出向き、検診バスも呼び、健（検）診を試みたことがあったが、さすがに運動する所で健（検）診という考えがなかったせいか低調に終わったという結果がある。

北井会長：老人会の集まりや敬老の日の集まりで保育園が出し物をする時にでもいいかもしれない。イベントの多い場所でやった方が受診率が上がるような気がする。

②予防接種事業について 資料3参照

橋本委員：テレビの報道で肺炎球菌ワクチンの問い合わせが増えていると聞いたが、带状疱疹ワクチンの話もテレビCMで流れているので、医療機関にも問い合わせがきている。話を聞くと、公費負担で検討されている自治体があると聞いたが、加賀市はどのようなだろうか。

事務局：加賀市も現在、検討中ということだけお答えさせていただく。

北井会長：4万円くらいなのか。

事務局：2回で4万円になる。

北井会長：お年寄りの方は何人いるのか。

事務局：65歳以上で2万2千人いる。

北井会長：だいたい子宮頸がんが増えたが、何か啓発活動はしたのか。

事務局：接種対象者の方々には既に接種券等を送付済である。啓発活動として9価のワクチンが使えるようになったという案内のはがきも送っている。接種券がお手元にあることで、「この接種券はいつまで使えるの。」と問い合わせを多く受けて回答はかなりしている。

北井会長：補足の説明をするが、9価とか2価とか数は頭に入らないかもしれないが、2種類のウイルス、4種類のウイルス、9種類のウイルスに対応しているワクチンかどうかということである。

これは何歳の人にはがきを送っているのか。

事務局：キャッチアップ接種の方は平成9年4月2日以降、26歳の方から若い人に対して全員にはがきを送付した。

北井会長：定期接種は。

事務局：高校1年生の方から下の中学1年生の方に対してはがきを送付している。

北井会長：13歳、14歳、15歳、16歳の市内在住の方に直接はがきを自宅に送っているということで間違いないのだろうか。

みなさんのお孫さんやお子さんの家にも届いていると思うが、受けているのか。日本だけが接種が遅れていて、子宮頸がんや若い子が死ぬ国は日本だけである。ぜひとも受けていただきたい。

子どものワクチンである5種混合ワクチンは母子手帳に入るのか。

事務局：現在、配布しているものには5種混合ワクチンという記載はないが、令和6年度からの母子手帳には追加される形になる。5種混合ワクチンは今まで任意接種という形で接種できたが、国の予防接種の実施要領等には5種混合ワクチンは記載されていなかった。令和6年4月から記載されて定期接種としてとして使われるとなっている。

北井会長：現在、住民のみなさんに5種混合ワクチンはどのように説明されているのか。

事務局：現在のところは説明していないが、新たに接種対象となる2か月児の方に接種券を送る時には5種混合も使えるようになった旨をご案内させていただく。

北井会長：2か月のお子さんにはこちらからはがきを送っているということなのか。

事務局：接種券を送る時にご案内の文書を添えてお送りする形となっている。

北井会長：接種漏れはどのように把握しているのか。

事務局：各医療機関から接種したとの報告をもらっていて、未接種という形での把握はできる。

北井会長：実際に未接種の人がいて、そのまま小学校に入ってくる場合もあるのか。

事務局：未接種の人でご両親の方針で接種しないという方もいるので、あくまでご案内という形でとどめている。

北井会長：加賀市は未接種のお子さんで小学校に入ってくる人数は特定しているのか。

事務局：小学校において未接種の方は記録上、確認できる。

北井会長：だいぶ多いのか。

事務局：それほどでもないが、%にすると98%ぐらいは接種済みとなっている。

北井会長：色々な考えがあってもよいが、我々医療者としたらできればワクチンは防げる時に防いでいただきたいのが本音である。我々とすれば情報をできるだけ提供して接種を進めるという形で考えたいと思っている。

③新型コロナウイルス感染症対策について 資料4参照

北井会長：令和6年度以降の新型コロナワクチン接種に関して、市は関与しないのか。

事務局：特例臨時接種から定期接種に移行するため、引き続き市町村の事務として予防接種事務は行っていくことになる。

北井会長：集団接種会場を設けるとのことか。

事務局：集団接種会場は設けない。国の方針として、個別の医療機関での定期接種を進めていくことになっている。

北井会長：市が集団接種会場を設けずに、クリニックの先生方と個別に契約してということになるのだろうか。

個別接種だけで接種回数を賄えると計算されているのか。

事務局：現行の秋開始接種の接種人数や接種率、また定期接種移行後の接種対象者が高齢者インフルエンザワクチンと同様と考えれば、個別接種で対応可能と思っている。

4. 閉会